

ねらい

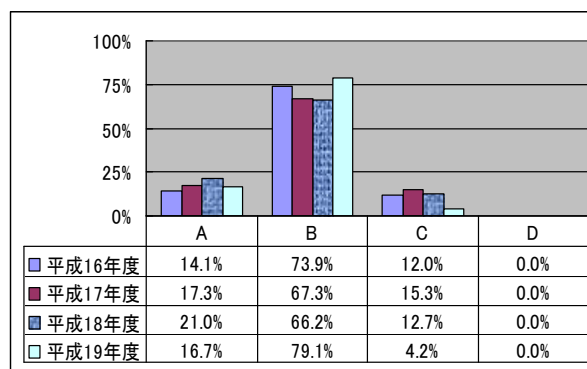
幼稚園においては、家庭と連携して、幼児期の道徳性の芽生えを培う教育の充実に努めています。幼児が日常生活に必要な習慣を体得すること、善悪の判断を考えるようにすること、思いやりの心の育成や社会生活上のルールに気づかせることなど、粘り強く指導を行っています。

現状

○ 幼稚園における道徳性の芽生えを培う活動等の充実に関する「実践事例集Ⅰ・Ⅱ」の活用

- ・ 平成14・15年度文部科学省指定の調査・研究委託事業を契機として、道徳性の芽生えを培う活動の充実をめざし、全園で取組を強化しています。
- ・ 平成19年度は、平成17年度に作成した幼稚園における道徳性の芽生えを培う活動等の充実に関する「実践事例集Ⅱ」を参考資料にして各園で実践を出し合いながら検討を行い、幼児期の指導のあり方について研修を深めました。
- ・ 指導方法の工夫改善の教職員アンケート結果から、道徳性の芽生えを培うための指導を行ったかという設問に対して十分・おおむね十分との回答が96%となり、取組の深まりが表れています。

Q：道徳性の芽生えを培うための指導を行ったか。



【A：十分 B：おおむね十分 C：やや不十分 D：不十分】

(P.55 指導方法の工夫改善の教職員アンケート結果再掲)

○ 道徳性の芽生えを培う活動等の充実に関する園内研修でのカンファレンスの視点

<カンファレンスの視点>

- ① 基本的な生活習慣の育成
- ② よいことや悪いことを判断する力の育成
- ③ 思いやりの心の育成
- ④ 社会生活上のルールを守る力の育成
- ⑤ 生命を尊重する心の育成

- ・ 教えること・考えさせること（気付かせること）・しつけること・見守ることの4つのポイントを基にカンファレンスを行いました。
- ・ 各園では基本的な生活習慣を確立することを基本としながら、友だちとの楽しいかかわりを大切にすることで、いざこざや葛藤も経験させながら相手の気持ちに気付かせています。また、人としてしてはいけないことは明確に示し、き然とした態度で指導を行っています。

課題（今後の方向）

- 実践事例集Ⅰ・Ⅱを活用し、幼児の行動の意味を深く理解するとともに、上記の5つの視点を基に幼児の発達段階を踏まえ、適切な指導ができるようカンファレンスを深めていきます。
- 教育計画に、友だちや身近な人とのかかわりを深める活動などを位置付け、道徳性の芽生えを培う活動の充実に向け取り組みます。
- 幼児期から心の教育の取組について、家庭との連絡を密にするなど連携の強化を図り積極的に進めていきます。